

村半利活用検討会（令和2年度第5回）結果報告

日時 令和3年3月15日(月)16時00分～17時20分

場所 村半 大会議室

出席者 検討会メンバー8名、事務局(企画課)3名

内容

1. 開会あいさつ

開所から8カ月が経過した。認知度も高まってきており、様々な目的で多くの方々に利用されている。今後もさらに利用促進を図り、若者の地元定着などにつなげていきたいと思っている。1月から3月初めまで開所時間の短縮や新たな占用予約も停止しており利用者には不便をおかけしてきたが、現在は通常の運営に戻っている。本日は今年度最後の検討会となるため、総括して評価等をいただきたい。

2. 報告事項

(1)利用登録の状況について

個人(うち学生の内訳)、団体登録について、資料に基づき説明

(2)利用者等実績について

利用者(供用、占用)及び一般開放による入所者数、占用利用の状況について、資料に基づき説明

1月中旬から非常事態宣言が出され、新規の占用予約の受付を停止したことも受けて、利用者が大幅に減少した。2月と3月にもものづくり教室を2回開催した。3月以降は少しずつ利用が戻ってきている。文化的団体の利用も増えてきているが、今後は若者が主体となった活動の幅や深さがもう少し広がっていくよう取組みたい。

3. その他

村半アンケートの実施及び木工芸術スクールとの連携による家具製作と作品展について、資料に基づき説明

<意見交換、質疑> メ:構成メンバー、事:事務局

メ:利用者は、伝統ある木造建築を改修した建物で様々な活動を行っているが、古い建物の雰囲気をもどの程度感じているのか。アンケートの設問2に関連するが、他の市の貸館施設とは違う雰囲気があると感じてほしいし、村半の大事なところと思うが実際はどうか。

事:市ではブランド戦略会議を村半で開催し、落ち着いた雰囲気の中で有識者の方々に飛騨高山の良さを伝える良い機会になった。地域の方々が祭囃子の練習をされたり、最近では三味線の稽古など、文化的活動も徐々に増えてきており、同じ場所にいる中高生が何かを感じられると思っているため、そのような場面が増えていくとよい。

メ:利用者が「良い雰囲気だ」「大事にしなければならない」と思ってもらえるとよい。文化伝承館では三味線や琴の演奏がされており、村半の雰囲気を味わいながら利用したい人が増えてほしいと思う。

事:利用者からは雰囲気が良いとの声が多い。文化的な活動はまだ少なく、主屋の利用も多くないと感じているため、PR強化が必要と考えている。

メ:文化的な利用について、年に1、2回、地域で歴史文化などを学ぶ機会を作るよう検討している。

メ:掛軸について、市有美術品を利用できないか。

メ:文化財課の所有する掛軸の貸出しは可能だが、盗難や汚損などを防止できる管理が条件となる。

メ:地元作家などの掛軸を貸出してもらい、利用者が利用方法に則した掛軸を選んだり、花を生けてもらうのはどうか。

メ:生涯学習課で所有する美術品を現在整理しており、できる限り早い時期にルールを整え、一般に貸し出すことを検討している。

メ:文化財課と生涯学習課でそれぞれ掛軸を所有しているのか。

メ:文化財課では、地域の歴史文化を語る上で重要な資料を収集している。

メ:文化伝承館では、季節に合った掛軸を掛けており、お茶会などのテーマに合わせた掛軸を使うこともある。市有美術品を市民が借りられる制度があればありがたい。

メ:文化伝承館には、管理者の常駐や盗難防止の対策などを確認した上で文化財課から掛軸を貸出している。文化財の保存と活用は対立する面もあるが、活用されることが望ましい。村半の性格は、博物館や美術館ではなく、若者が活動する事務所のため、掛軸をはじめ美術品に気軽に親しんでもらえるとよい。掛軸の掛け方や季節によって替えることを学ぶのも良いと思う。必ずしも文化財級の作品である必要はなく、現代作品でもよい。

事:良い提案をいただいたため、今後実現していけるとよいと考える。

メ:コロナ禍の中、とても活用されていると感じた。外壁の色が古い町並には合っていないと判断されたためか、景観デザイン賞が選外となったことは残念に思う。

メ:外壁の色はかなり悩んだが、文化財の観点では、周りの景観に合わせるのではなく、その建物に合った形で修理をするのが原則。村半のベンガラ色は、今の感覚では派手さを感じるかもしれないが、いつの時代に合わせるかは様々な議論があり、正解はない。村半が建ったときにはこのベンガラ色であり、時代とともに化学塗料などに変わってきたが、オリジナルのベンガラ塗りとした。歴史を踏まえ、問題提起したり、様々な建物があつたと知ってもらうため判断したものである。

メ:下一之町の外観修繕では、この色では補助対象とならないのでは。古いものを残すばかりが良いのではなく、現代に合った色に変えても、理解されやすく、建物の価値も上がるように思う。

メ:ある程度時を経てなじんでいく、渋みも出てくると考えられるため、長い目で見てほしい。

メ:景観保存区域と伝統的建造物群保を地区の制度の違いがある。伝統的建造物群保存地区では建物を個別に判断し、景観保存区域の下一之町では、マンセル値による指導を行っている。

メ:現在は茶系統の建物がほとんどだが、昔からこのような色だったのか。

メ:伝統的建造物群保存地区では昔はベンガラ色が多かったはずだが、経年劣化により落ち付いた色味に変色するため、現在は一般的には経年劣化後の色味の科学塗料が塗られている。

メ:地域でもベンガラ色が気になる方は居る。上一之町にもベンガラ色の建物が残っており、昔はこのような色の建物が多かったのではないかと地域の方に答えている。この色味が良いか悪いか、次塗り替える時には色を変えたほうが良いかなど、地域の方々には様々に議論してほしい。

メ:考える良いチャンスになる。

メ:登録者の中で斐太高生の割合が大多数であるが、斐太高生以外は使いにくいといったイメージが定着しないようにすべき。来年度利用者が増えて構成比も変化してくると良いと思う。また、所内で高校生が熱心に勉強している姿をよく見るが、高校生が主体となった様々な活動も増えてくるとよい。

事:登下校の通り道に位置することも影響していると思うが、利用者や活動内容の幅が広がっていくことが望ましいため、努力していきたい。

メ:今年度はコロナの影響で様々な制限がある中で、比較的多くの利用者があったと思う。大学連携センターとして、本来なら他県から多くの学生に高山に来てもらい、村半を拠点に活動する機会もあったはずだが、自粛される大学が多かった。コロナの収束に応じて大学生の施設利用につなげたり、地元高校生や大学生との交流の場等としても活用がすすめば良いと思う。来年度は村半や行神橋など、人の滞留を起こそうとする動きがある中で、村半も変化に対応しながら役割を果たしていけるとよい。

メ:1年経つと建物各所に不具合が生じてくることもあるため、経年検査をするとよい。

事:そのようにする。

メ:斐太高生が多い件については、他校にも積極的にアプローチして活動が広がるようにしてほしい。

事:市からは飛驒地域全ての高校に向けて同じレベルで発信してきた。結果につながるよう、引き続き取り組んでいきたい。

4.閉会あいさつ

今年度、お陰様でスムーズな滑り出しができたことに感謝、引き続き来年度もご協力をお願いしたい。

以上